

献血に行こう！



— 命を救うボランティア —

問 市健康増進課 管理係 54-7005

日常生活の中で、耳にしたことがある「献血」。
実は、技術が進歩した今日でも、血液は人工的に作ることができないと知っていますか。
今回、茨城県赤十字血液センターの小俣さんに献血の重要性についてお話を伺いました。

献血された血液は、ほとんどが“病気の治療”に使われます

血液は酸素や栄養の運搬、免疫など人間の生命を維持するために欠かせないものです。現在、血液の機能を完全に代替できる人工血液は存在しないため、医療において輸血は欠かすことができない治療法となっています。このため、献血によって必要な血液を確保し続ける必要があります。

献血された血液は、交通事故などの大けがによる大量出血時の輸血に使われるイメージがあるかもしれませんが、そのほとんどは病気の治療、特にがんの治療に使われます。がん治療では使用される抗がん剤の副作用により、血液の成分が体内で作れなくなってしまうため、定期的に献血された血液が必要です。

安定して血液を届けるためには

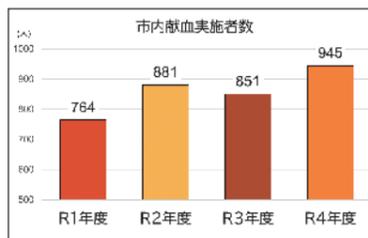
県内では、1日あたりおよそ200～300人分の献血が必要です。また、血液は長期間保存することができないため、常に安定的に献血によって血液を確保しなければなりません。

献血は誰かに強制されるものではなく、皆さんの自発的な意思、善意によって成り立っています。「自分がやらなくても」と考える方もいるかと思いますが、献血の基準により年齢や既往歴、献血できる回数等に制限があるため、必要な血液を確保するためには一人でも多くの方にご協力いただくことが必要です。

茨城県赤十字血液センターでは、皆さんの職場や学校、お近くの商業施設に定期的に献血バスを運行しております。ぜひ、必要性をご理解いただき、献血会場に足を運んでいただくと嬉しいです。



茨城県赤十字血液センター
小俣 大輔 さん



市内における献血の実施状況

献血できる人(対象者)

献血をする方の健康を守り、輸血を受けられる方の安全性を高めるために、さまざまな基準が設けられています。

はたちの献血キャンペーン

2月29日まで、はたちの献血キャンペーンを行っています。血液の安定供給のためには若い世代の方々の協力が必要不可欠です。詳細はホームページをご確認ください。



〈主な献血基準〉

採血種類	全血採血		成分採血	
	200mL	400mL	血漿	血小板
年齢	16～69歳	男性:17～69歳 女性:18～69歳	18～69歳	男性:18～69歳 女性:18～54歳
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
年間総採血量	200mL・400mL全血を合わせて 男性 1,200mL以内 女性 800mL以内		無し	
年間採血回数	男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内	血小板成分献血1回を 2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	
体温	37.5℃未満			

日本赤十字社ホームページより抜粋



献血ができる場所

献血バス

月1回程度、市役所や市内の商業施設などに運行しています。そのほか、市内では10以上の事業者にもご協力いただき、移動採血車による献血を行っています。

献血バス運行スケジュールはこちら ▶



献血ルーム

献血ルームは献血のための常設施設です。県内では水戸・つくばの2か所にあります。

水戸献血ルーム

水戸市宮町1丁目7-31 エクセルみなみ6階

つくば献血ルーム 3月1日移転オープン

つくば市吾妻1-7-1 トナリエクレオ4階



献血の方法

1 受付



身分証明書を用意・本人確認を行い、献血の同意書を記入します。

2 体重測定・質問回答



適正な採取量を算出するため体重測定を行います。また、健康状態に関する質問に回答します。

3 問診



回答した内容に基づき、問診、血圧・脈拍測定および体温測定を行います。

4 血液検査・採血



採血基準を満たしているかなどを検査します。献血可能であれば採血ベッドに横になり、採血を開始します。

5 休憩



献血後には、十分に水分補給を行い、10分以上休憩をとります。

6 献血カード受取り



今回の献血を印字した献血カードを受取ります。裏面には次回献血可能日などが印字されています。